

問題作成方針に関する検討の方向性

○『数学Ⅰ、数学A』及び『数学Ⅰ』については、選択問題を含まず、全てを解答することとする。

○『数学Ⅱ、数学B、数学C』については、「数学Ⅱ」は選択問題を含まず、全てを解答することとし、「数学B」及び「数学C」については、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答することとする。従来の『数学Ⅱ・数学B』から出題範囲が増えることに伴い、各大問の分量については、内容と試験時間

(70分)を踏まえて調整する。

○これまでの問題作成方針で示されている、「**数学的な問題解決の過程**」を引き続き重視しつつ、**新学習指導要領**に示されている、**数学の各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視した**ものとなるよう検討する。

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](https://www.dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

【問題作成方針のポイント】

- ・令和6年度までの問題作成方針や2022年11月に公開された検討の方向性から大きな変更はない。
- ・今回公開された問題作成方針では「問題発見の過程を重視する」ことや「(得られた結果を)統一的・発展的に考察すること」を求めるといったことが追記された。
- ・問題の作成に当たっては「数学における概念や原理を基に考察する」ような題材を検討することが追記されている。



問題作成方針

【令和7年度】

数学の**問題発見**・解決の過程を重視する。事象を**数理的に捉え**、数学の問題を見いだすこと、**解決の見通しをもつこと**、目的に応じて数、式、図、表、グラフなどの**数学的な表現を用いて処理すること**、及び**解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したり、統一的・発展的に考察したりすること**などを求める。

問題の作成に当たっては、**数学における概念や原理を基に考察したり**、数学のよさを**認識**できたりするような題材等を含め検討する。例えば、日常生活や社会の事象など様々な事象を数理的に捉え、数学的に処理できる題材、教科書等では扱われていない**数学の定理等を既習の知識等を活用しながら導くことのできるような題材が考えられる。**

参考【令和6年度】

数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着眼して**数学的な問題を見いだすこと**、**構想・見通しを立てること**、目的に応じて**数・式、図、表、グラフなどを活用し**、一定の手順に従って**数学的に処理すること**、及び**解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること**などを求める。

また、問題の作成に当たっては、**日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。**